

## 新展示場紹介

## 電気科学館の展示を再び

4F

いま、科学館はリニューアル作業の真っただ中。展示場も多くが新しくなりますが、その中で4階にあった「大阪の科学」コーナーもより充実させます。これまでの江戸時代の科学や、旧大阪帝大の Cockcroft・ウォルトン型加速器などの展示に加え、いくつかの展示が加わる予定です。

新たに登場するものの一つに、1937年開館の電気科学館を紹介するコーナーがあります。電気科学館には、電気の原理や応用をわかりやすく紹介する展示場「電気館」があり、体験展示中心のフロアが展開されていましたが、そこには、現在の科学館にもある「回転たまご」や、「手回し発電機」も見られました。今でも全国の科学館でみられるこれらの展示が、既に80年以上も昔からあったことは驚きです。



写真2. 現在の手回し発電。

科学の基本的な原理は今も昔も変わりません。ですので、原理を使った展示は、時代を超えて楽しむことができるのが特徴です。そのような展示たちと、大阪という要素を融合させた新しいコーナーとなる予定です。長年親しまれている大阪の科学館をより楽しめる展示になるように工夫を凝らしたいと思います。

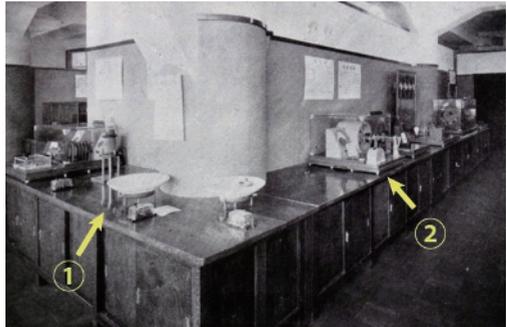


写真1. 開館当時の電気科学館の展示場。  
①が回転たまご、②が手回し発電。

新しいコーナーでは、電気科学館の概要紹介に加え、開館初期から設置されていた装置をモチーフにした展示をいくつか設置する予定です。これまで4階にあった「回転たまご」と1階にあった「手回し発電」のほか、いま計画中の一つが電気科学館で「幻の花」と名付けられた展示です。さて、これはいったいどんなもののでしょうか。そして、これら以外にも新設を計画していますので、オープン後のお楽しみにください。

嘉数 次人(科学館学芸員)